

大学等設置に係る設置計画履行状況報告書

※

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 宮崎大学

(2) 大学名

農学工学総合研究科（博士後期課程）

(3) 大学の位置

〒889-2192
宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
学長	(スミヨシ アキノブ) 住吉 昭信 (平成17年10月)		
研究科長	(コバエ ショウイチロウ) 小八重 祥一郎 (平成19年4月)	(ナカザワ リウオウ) 中澤 隆雄 (平成19年10月)	前任が任期満了のため変更 (20)

(注) 『(3) 大学の位置』は、申請学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。

『(4) 管理運営組織』の「変更状況」欄は、変更があった場合のみ記入し、併せて「備考」欄に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)

平成21年度に報告する内容 → (21)

※ 「留意事項報告書」の場合は、タイトルを修正してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) 1 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 2 様式は, 平成18年度開設の場合(平成21年度までの4年間)ですが, 開設年度に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)
 3 定員を変更した場合は, 備考欄に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) -① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	認可時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
農学工学総合研究科 資源環境科学専攻(博士後期課程) 博士(農学) 博士(工学) 博士(学術)	3年	4人	12人	基礎となる学部名等なし
生物機能応用科学専攻(博士後期課程) 博士(農学) 博士(工学) 博士(学術)	3	4	12	
物質・情報工学専攻(博士後期課程) 博士(工学) 博士(学術)	3	8	24	

(注) 「備考」欄に基礎となる学部等の名称を記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

資源環境科学専攻(博士後期課程)

区分	対象年度			平均入学定員超過率	備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度		
A 入学定員	(-) 4人	(-) 4人	(-) 4人	3.91倍	平成19年度には、平成19年10月入学者を含み修正を加えた。(20) 平成20年度には、平成20年10月入学者を含み修正を加えた。(21)
志願者数	(7) (5) 17 15	(6) (2) 18 10	(2) 14		
受験者数	(7) (5) 17 15	(6) (2) 17 9	(2) 13		
合格者数	(7) (5) 17 15	(6) (2) 17 9	(2) 13		
B 入学者数	(7) (5) 17 15	(6) (2) 17 9	(2) 13		
入学定員超過率 B/A	(-) 4.25 3.75	(-) 4.25 2.25	(-) 3.25		

生物機能応用科学専攻(博士後期課程)

区分	対象年度			平均入学定員超過率	備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度		
A 入学定員	(-) 4人	(-) 4人	(-) 4人	0.91倍	平成19年度には、平成19年10月入学者を含み修正を加えた。(20) 平成20年度には、平成20年10月入学者を含み修正を加えた。(21)
志願者数	(1) 4 3	(2) 7 6	(0) 0		
受験者数	(1) 4 3	(2) 7 6	(0) 0		
合格者数	(1) 4 3	(2) 7 6	(0) 0		
B 入学者数	(1) 4 3	(2) 7 6	(0) 0		
入学定員超過率 B/A	(-) 1.00 0.75	(-) 1.75 1.50	(-) 0		

物質・情報工学専攻（博士後期課程）

区分	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均入学定員 超過率	備 考
A	入学定員	(-) 8	(-) 8	(-) 8	0.58	平成20年度には、平成20年10月 入学者を含み修正を加えた。(21)
	志願者数	(3) 4	(3) 8 7	(1) 2		
	受験者数	(3) 4	(3) 8 7	(1) 2		
	合格者数	(3) 4	(3) 8 7	(1) 2		
B	入学者数	(3) 4	(3) 8 7	(1) 2		
	入学定員超過率 B/A	(-) 0.50	(-) 1.00	(-) 0.25		

(注) 1 () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

2 「平均入学定員超過率」欄には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入し、平均入学定員超過率も同様の方法としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

資源環境科学専攻（博士後期課程）

学 年	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備 考
1年次	[4] 15	[2] 11	[9] 21	平成20年度1年次欄には、 平成19年10月入学者を含む	
2年次	/	[4] 14	[2] 11		
3年次	/	/	[4] 14		
計	[4] 15	[6] 25	[15] 46	平成21年度2年次欄には、 平成19年10月入学者を含む	

生物機能応用科学専攻（博士後期課程）

学 年	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備 考
1年次	[0] 3	[3] 7	[1] 1	平成20年度1年次欄には、 平成19年10月入学者を含む	
2年次	/	[0] 3	[3] 7		
3年次	/	/	[0] 2		
計	[0] 3	[3] 10	[4] 10	平成21年度2年次欄には、 平成19年10月入学者を含む	

物質・情報工学専攻（博士後期課程）

学 年	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備 考
1年次	[0] 4	[2] 7	[1] 3	平成21年度1年次欄には、 平成20年10月入学者を含む	
2年次	/	[0] 4	[2] 7		
3年次	/	/	[0] 4		
計	[0] 4	[2] 11	[3] 14		

(注) 1 [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。

(5) - ④ 調査対象研究科等の退学者等の状況

入学者数欄には、平成19年10月入学者及び平成20年10月入学者を含み、修正を加えた。

資源環境科学専攻(博士後期課程)

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 1 [0]	計 17 [4]	[0 %] 5.9 %
	うち平成19年度入学者 1人	うち平成19年度 17人	
	(主な退学理由) 学生個人の心身に関する事情 1名		
平成20年度	計 0 [0]	計 34 26 [10 6]	[0 %] 0 %
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 17人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 17 9 人	
(主な退学理由)			
平成21年度	計 0 [0]	計 47 [15]	[0 %] 0 %
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 17人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 17人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 13人	
(主な退学理由)			

退学者数欄、入学者数欄、及び入学者に対する退学者数の割合欄には、平成19年10月入学者及び平成20年10月入学者を含み、修正を加えた。

生物機能応用科学専攻(博士後期課程)

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 0 [0]	計 4 [1]	[0 %] 0 %
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 4人	
	(主な退学理由)		
平成20年度	計 1 0 [0]	計 11 10 [4 3]	[0 %] 9.1 0 %
	うち平成19年度入学者 1 0 人	うち平成19年度 4人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 7 6 人	
(主な退学理由) 学生個人の心身に関する事情 1名			
平成21年度	計 0 [0]	計 11 [4]	[0 %] 0 %
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 4人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 7人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 0人	
(主な退学理由)			

区分 対象年度	退学者数（a）	入学者数（b）	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 0 [0]	計 4 [0]	[0 %] 0 %
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 4人	
	(主な退学理由)		
平成20年度	計 0 [0]	計 12 11 [3 2]	[0 %] 0 %
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 4人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 8 7 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度	計 0 [0]	計 12 [3]	[0 %] 0 %
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 4人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 8人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 2人	
	(主な退学理由)		

(注)1 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

2 「入学者数に対する退学者数等の割合」欄は、各対象年度における退学者等の数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

3 「主な理由」欄は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

- ・就学意欲の低下
- ・学力不足
- ・他の教育機関への入学・転学
- ・海外留学
- ・就職
- ・学生個人の心身に関する事情
- ・家庭の事情
- ・除籍
- ・その他

(例)今年度完成年度を迎える大学

一般的には、平成21年度欄については、入学後1か月程度しか経過していないため、退学者数は「0」や少数であることが想定されます。また、平成18、19年度は原則として昨年度の報告書と同様の記載となります。

2 授業科目の概要

<農学工学総合研究科 資源環境科学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
基礎科目群	研究科共通										
	研究者倫理	未開講 1前	1				7				館准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定
	専修必修講義 (環境共生科学教育コース)										
	資源環境共生科学 (持続生産科学教育コース)	1前	2				13				
	持続生産科学	1前 未開講 1前	2				11 12	1			辰巳教授の辞職により授業科目担当変更(21) 平成21年1月 教員審査済 判定D可 辰巳教授の辞職により授業科目担当変更(20) 平成21年7月 教員審査提出予定
研究基礎科目群	専攻選択講義 (環境共生科学教育コース)										
	環境共生科学特論	1後～2前		2			4	2			
	社会基盤災害軽減学	1後～2前 未開講 1後～2前		2			2 1	3 4			山本准教授の昇格により変更(21) 平成20年7月教員審査済 判定D可 山本准教授の昇格により変更(20) 平成20年7月教員審査提出予定 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	森林資源保全利用学	未開講 1後～2前 未開講 1後～2前		2			2	1			伊藤准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定 通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	草地システム科学	1後～2前 未開講 1後～2前		2			1	1			通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	草本植物資源開発・利用学	1後～2前 未開講 1後～2前		2			2	1			通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	応用動物環境管理学	未開講 1後～2前 未開講 1後～2前		2				1			長谷川准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定 通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	資源循環化学特論	1後～2前 未開講 1後～2前		2			1	3			通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	地域社会基盤特論Ⅰ	1後～2前 未開講 1後～2前		2				2			通常開講(21) 履修希望者がいなかったため(20)
	地域社会基盤特論Ⅱ	1後～2前 未開講 1後～2前		2				3	2		通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	(持続生産科学教育コース)										
	作物生産学	未開講 1後～2前		2				1			履修希望者がいなかったため(20)
	先端園芸学	1後～2前 未開講 1後～2前		2				1	1 2		宮島准教授の死亡退職により授業科目担当変更(21) 平成20年7月・平成21年1月教員審査済 判定 D可 宮島准教授の死亡退職により授業科目担当変更(20) 平成20年7月教員審査提出予定
	ホストハーベストイノベーション	1後～2前 未開講 1後～2前		2				1	1		辰巳教授の辞職により授業科目担当変更(21) 平成21年1月教員審査済 判定D可 辰巳教授の辞職により授業科目担当変更(20) 平成20年7月教員審査提出予定 履修希望者がいなかったため(19)
	植物育種学特論	1後～2前		2				2			
	分子植物病理学	1後～2前 未開講 1後～2前		2				1	1		通常開講(21) 履修希望者がいなかったため(19)
動物資源生化学	1後～2前 未開講 1後～2前		2				2	1		通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数				専任教員配置					備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	動物機能情報制御学	未開講 1後～2前 未開講 1後～2前		2			2	2					履修希望者がいなかったため(21) 長谷川准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定 通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	農業環境工学特論	1後～2前 未開講 1後～2前		2			1	1					通常開講(21) 履修希望者がいなかったため(19)
	造林学特論	未開講 1後～2前		2			1						履修希望者がいなかったため(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
特別研究	(環境共生科学教育コース)												
	環境共生科学特別研究	1～3通	5				14 13	13 14					伊藤准教授、長谷川准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定 山本准教授の昇格により変更(21) 平成20年7月教員審査済 判定D可 山本准教授の昇格により変更(20) 平成20年7月教員審査提出予定
	(持続生産科学教育コース)												
	持続生産科学特別研究	1～3通	5				11 12	6 7					辰巳教授の辞職、宮島准教授の死亡退職により変更(20)

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
5	18	0	23	5	18	0	23	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	研究者倫理	1	1前	専門	必修	授業担当する鄧准教授の昇格のため。教員審査を平成21年7月に提出予定である。審査後以降に開講予定している。
2	森林資源保全利用学	2	1後～2前	専門	選択	授業担当する伊藤准教授の昇格のため。教員審査を平成21年7月に提出予定である。審査後以降に開講予定している。
3	応用動物環境管理学	2	1後～2前	専門	選択	授業担当する長谷川准教授の昇格のため。教員審査を平成21年7月に提出予定である。審査後以降に開講予定している。
4	作物生産学	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため
5	動物機能情報制御学	2	1後～2前	専門	選択	授業担当する長谷川准教授の昇格のため。教員審査を平成21年7月に提出予定である。履修希望者がいなかったため審査後以降も未開講である。
6	造林学特論	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「研究者倫理」「森林資源保全利用学」「応用動物環境管理学」「動物機能情報制御学」については、授業担当教員の昇格による変更を平成21年7月に教員審査提出予定であり、審査後以降に開講予定である。なお、該当授業科目は、当初から9月又は2月に開講予定（「動物機能情報制御学」は履修希望者がいなかったため未開講）であり、学生には4月オリエンテーションで周知した。
他の2科目は未開講の理由が「履修希望者がいなかったため」であるので、特になし。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.26$$

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は、設置認可申請書の様式第2号(その2)に準じて作成してください。
2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
3 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の提出日等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)

- 4 「(2) 授業科目数」は、未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に差し引き数を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- 5 「(3) 未開講科目」は、配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 6 「(4) 廃止科目」は、認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 7 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」欄には、授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
- 8 「(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

<農学工学総合研究科 生物機能応用科学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目群	研究科共通											
	研究者倫理	未開講 -1前	1				7					鄧准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定
	専修必修講義 (生命機能科学教育コース)											
	生命機能利用学 (水域生物科学教育コース)	未開講 -1前	2				6					履修希望者がいなかったため(21)
	水域生物科学	1前	2				10					
研究基礎科目群	専攻選択講義 (生命機能科学教育コース)											
	微生物機能利用学	1後～2前 未開講 -1後～2前	2			2	1					通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	生体情報解析学	未開講 -1後～2前 未開講 -1後～2前	2				2					履修希望者がいなかったため(21) 通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	生物応用工学	未開講 -1後～2前	2			1	1					履修希望者がいなかったため(19)
	応用生物化学	1後～2前 未開講 -1後～2前	2			1	1					通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
	食品機能化学	1後～2前 未開講 -1後～2前	2				2					通常開講(21) 履修希望者がいなかったため(19)
	生物物質工学 (水域生物科学教育コース)	1後～2前 未開講 -1後～2前	2			2						通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	水域生命利用化学	未開講 -1後～2前 未開講 -1後～2前	2			4	1					履修希望者がいなかったため(21) 通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	水域資源生物学	未開講 -1後～2前	2			3						履修希望者がいなかったため(19)
	水族分子生物学	1後～2前	2			1	1					荒西准教授の辞職により授業科目担当変更(20) 平成20年1月教員審査済 判定可
	水族生理・病理学	1後～2前	2			2	1					
	特別研究	(生命機能科学教育コース)										
生命機能科学特別研究		1～3通	5				8	5				
(水域生物科学教育コース)												
	水域生物科学特別研究	1～3通	5				10	2 3				荒西准教授の辞職により変更(20)

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
5	10	0	15	5	10	0	15	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	研究者倫理	1	1前	専門	必修	授業担当する鄧准教授の昇格のため。教員審査を平成21年7月に提出予定である。審査後以降に開講予定している。
2	生命機能利用学	2	1前	専門	必修	履修希望者がいなかったため
3	生体情報解析学	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため
4	生物応用工学	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため
5	水域生命利用化学	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため
6	水域資源生物学	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「研究者倫理」については、授業担当教員の昇格による変更を平成21年7月に教員審査提出予定であり、審査後以降に開講予定である。なお、「研究者倫理」は、当初から9月に開講予定であり、学生には4月オリエンテーションで周知した。
他の5科目は未開講の理由が「履修希望者がいなかったため」であるので、特になし。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.4$$

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は、設置認可申請書の様式第2号(その2)に準じて作成してください。
2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
3 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の提出日等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
4 「(2) 授業科目数」は、未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に差し引き数を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
5 「(3) 未開講科目」は、配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
6 「(4) 廃止科目」は、認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
7 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」」欄には、授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
8 「(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目群	研究科共通											
	研究者倫理	未開講 -1前	1				7					鄧准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定
	専修必修講義 (新材料エネルギー工学教育コース)											
	エネルギー変換論 (生産工学教育コース)	1前	2			8						
基礎科目群	設計生産システム論 (数理情報工学教育コース)	1前	2			7						
	数理情報工学論	未開講 -1前 未開講 -1前	2			5 6						履修希望者がいなかったため(21) 仙葉教授の辞職により、授業科目担当変更(20) 平成19年10月教員審査済 判定 可 履修希望者がいなかったため(19)
	専攻選択講義 (新材料エネルギー工学教育コース)											
	機能性材料特論	1後~2前 未開講 -1後~2前	2			2	1					通常開講(20) 学生が2年次での履修を希望したため(19)
研究基礎科目群	光・レーザー工学特論	1後~2前 未開講 -1後~2前	2			3 2	1 2					横谷准教授の昇格により変更(21) 平成20年7月 教員審査済 判定D可 横谷准教授の昇格により変更(20) 平成20年7月教員審査提出予定
	半導体材料特論	未開講 -1後~2前	2			1	3					学生が2年次での履修を希望したため(21)
	エネルギー応用工学特論	未開講 -1後~2前	2			1	1					学生が2年次での履修を希望したため(21)
	量子エネルギー特論	未開講 1後~2前 未開講 -1後~2前	2			1	2					履修希望者がいなかったため(21) 通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	宇宙エネルギー工学特論 (生産工学教育コース)	未開講 -1後~2前	2			1	2					履修希望者がいなかったため(19)
	設計生産技術特論	未開講 -1後~2前	2			3 2	2					鄧准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定 履修希望者がいなかったため(20) 海津准教授の辞職により授業科目担当変更(20) 平成20年1月教員審査済 判定 可 履修希望者がいなかったため(19)
	可視化情報振動工学特論	未開講 -1後~2前	2			2	2					履修希望者がいなかったため(21)
	制御システム特論	未開講 1後~2前 未開講 -1後~2前	2			2						履修希望者がいなかったため(21) 通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	高度生産情報システム特論 (数理情報工学教育コース)	1後~2前 未開講 -1後~2前	2			1	3					通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	生物の数理モデル特論	1後~2前 未開講 -1後~2前	2			1 2	3					通常開講(21) 学生が2年次での履修を希望したため(20) 仙葉教授の辞職により、授業科目担当変更(20) 平成19年10月教員審査済 判定 可 履修希望者がいなかったため(19)
	情報処理ソフトウェア特論	未開講 1後~2前 未開講 -1後~2前	2			2	2					履修希望者がいなかったため(21) 通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)
	情報処理ハードウェア特論	1後~2前 未開講 -1後~2前	2			2	3					通常開講(20) 履修希望者がいなかったため(19)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別 研究	(新材料エネルギー工学教育コース) 新材料エネルギー工学特別研究	1～3通	5			9 8	11 12					横谷准教授の昇格により変更(21) 平成20年7月教員審査済 判定D可 横谷准教授の昇格により変更(20) 平成20年7月教員審査提出予定
	(生産工学教育コース) 生産工学特別研究	1～3通	5			7	6 7					郎准教授の昇格により変更(21) 平成21年7月教員審査提出予定 海津准教授の辞職により変更(20)
	(数理情報工学教育コース) 数理情報工学特別研究	1～3通 未開講 1～3通	5			5 6	8					通常開講(21) 仙葉教授の辞職により変更(20) 履修希望者がいなかったため(19)

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
7	13	0	20	7	13	0	20	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	研究者倫理	1	1前	専門	必修	授業担当する鄧准教授の昇格のため。教員資格を平成21年7月に提出予定である。審査後以降に開講予定している。
2	数理情報工学論	2	1前	専門	必修	履修希望者がいなかったため。
3	半導体材料特論	2	1後～2前	専門	選択	学生が2年次での履修を希望したため。
4	エネルギー応用工学特論	2	1後～2前	専門	選択	学生が2年次での履修を希望したため。
5	量子エネルギー特論	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため。
6	宇宙エネルギー工学特論	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため。
7	設計生産技術特論	2	1後～2前	専門	選択	授業担当する鄧准教授の昇格のため。教員資格を平成21年7月に提出予定である。審査後以降に開講予定している。
8	可視化情報振動工学特論	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため。
9	制御システム特論	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため。
10	情報処理ソフトウェア特論	2	1後～2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「研究者倫理」「設計生産技術特論」については、授業担当教員の昇格による変更を平成21年7月に教員審査提出予定である。なお、該当授業科目は、当初から9月又は2月に開講予定であり、学生には4月オリエンテーションで周知した。
他の8科目は、未開講の理由が「学生が2年次での履修を希望したため」及び「履修希望者がいなかったため」であるので、特になし。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.5$$

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は、設置認可申請書の様式第2号(その2)に準じて作成してください。
2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え直し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
3 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の提出日等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
4 「(2) 授業科目数」は、未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に差し引き数を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)
5 「(3) 未開講科目」は、配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
6 「(4) 廃止科目」は、認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
7 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」」欄には、

授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

- 8 「(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	全学		
	校地敷地	361,261㎡	㎡	㎡	361,261㎡			
	運動場用地	129,466㎡	㎡	㎡	129,466㎡			
	小計	490,727㎡	㎡	㎡	490,727㎡			
	その他	507,998㎡	㎡	㎡	507,998㎡			
	合計	998,725㎡	㎡	㎡	998,725㎡			
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	全学 食堂増築のため(21)		
		101,617 101,153 (101,153 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	101,617 101,153 (101,153 ㎡)			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	全学		
	72 室	85 室	617 室	20 室 (補助職員 2人)	3 室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		専任教員の辞職等のため(21)		
	農学工学総合研究科(博士後期課程)			115 120 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	農学工学総合研究科	104,702 [20,110] (104,702 [20,110])	13,323 [3,162] (13,323 [3,162])	3,800 [3,800] (3,800 [3,800])	42 (42)	423 (423)	7,536 (7,536)	
	計	104,702 [20,110] (104,702 [20,110])	13,323 [3,162] (13,323 [3,162])	3,800 [3,800] (3,800 [3,800])	42 (42)	423 (423)	7,536 (7,536)	
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		全学	
	6,437㎡		439席		591,643冊			
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				全学	
	4,914㎡		武道館、弓道場、多目的グラウンド、球技コート、テニスコート					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による。
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) 1 認可時の計画を設置認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
 2 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 3 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。
 4 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
 なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
 5 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	宮崎大学学部							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
教育文化学部									
学校教育課程	4	150	—	600	学士(教育学)	1.04	平成20	宮崎市学園木花台西1丁目1番地	平成20年度から学生募集停止
人間社会課程	4	80	—	320	学士(教養)	1.09	平成20		
学校教育課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	平成15		
地域文化課程	4	—	—	—	学士(教養)	—	平成15		
生活文化課程	4	—	—	—	学士(教養)	—	平成15		
社会システム課程	4	—	—	—	学士(教養)	—	平成15		
医学部									
医学科	6	105	—	605	学士(医学)	1.00	平成15	宮崎郡清武町大字木原5200番地	(医学科) 平成21年度 ～平成29年度 入学定員 5増 (100→105)
看護学科	4	60	10 (3年次)	240	学士(看護学)	1.01	平成15		
工学部									
材料物理工学科	4	49	10 (3年次)	196	学士(工学)	1.07	平成15	宮崎市学園木花台西1丁目1番地	
物質環境化学科	4	68		272	学士(工学)	1.03	平成15		
電気電子工学科	4	88		352	学士(工学)	1.04	平成15		
土木環境工学科	4	58		232	学士(工学)	1.01	平成15		
機械システム工学科	4	49		196	学士(工学)	1.06	平成15		
情報システム工学科	4	58		232	学士(工学)	1.06	平成15		
農学部									
食料生産科学科	4	60	—	240	学士(農学)	1.04	平成15	宮崎市学園木花台西1丁目1番地	
生物環境科学科	4	65	—	260	学士(農学)	1.05	平成15		
地域農業システム学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.09	平成15		
応用生物科学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.03	平成15		
獣医学科	6	30	—	180	学士(獣医学)	1.07	平成15		

(注) 1 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。

(大学院及び短期大学の専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

2 認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。

3 「定員超過率」欄には、各修業年限に相当する期間(学年進行中の場合は、設置後経過した年数分)における入学定員超過率の平均を記入してください。

入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

なお、学生募集停止中の学部等については、「—」を記入するとともに、「備考」欄に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<農学工学総合研究科 資源環境科学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	杉本 安寛	平成19年4月	資源環境共生科学 環境共生科学特論 環境共生科学特別研究						
専	教授	目黒 貞利	平成19年4月	資源環境共生科学 森林資源保全利用学 環境共生科学特別研究						
専	教授	川村 修	平成19年4月	資源環境共生科学 草本植物資源開発・利用学 環境共生科学特別研究						
専	教授	平田 昌彦	平成19年4月	資源環境共生科学 草地システム科学 環境共生科学特別研究						
専	教授	西脇 亜也	平成19年4月	資源環境共生科学 環境共生科学特論 環境共生科学特別研究						
専	教授	甲斐 重貴	平成19年4月	資源環境共生科学 森林資源保全利用学 環境共生科学特別研究						
専	教授	稲垣 仁根	平成19年4月	資源環境共生科学 環境共生科学特論 環境共生科学特別研究						
専	教授	明石 良	平成19年4月	資源環境共生科学 草本植物資源開発・利用学 環境共生科学特別研究						
専	教授	中澤 隆雄	平成19年4月	資源環境共生科学 地域社会基盤特論Ⅱ 環境共生科学特別研究						
専	教授	今井 富士夫	平成19年4月	資源環境共生科学 地域社会基盤特論Ⅱ 環境共生科学特別研究						
専	教授	原田 隆典	平成19年4月	資源環境共生科学 社会基盤災害軽減学 地域社会基盤特論Ⅱ 環境共生科学特別研究						
専	教授	増田 純雄	平成19年4月	資源環境共生科学 環境共生科学特論 環境共生科学特別研究						
専	教授	馬場 由成	平成19年4月	資源環境共生科学 資源循環化学特論 環境共生科学特別研究						
専	教授	上運天 博	平成19年4月	持続生産科学 分子植物病理学 持続生産科学特別研究						
専	教授	原田 宏	平成19年4月	持続生産科学 動物機能情報制御学 持続生産科学特別研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	芦澤 幸二	平成19年4月	持続生産科学 動物機能情報制御学 持続生産科学特別研究						
専	教授	藪谷 勤	平成19年4月	持続生産科学 植物育種学特論 持続生産科学特別研究						
専	教授	六車 三治男	平成19年4月	持続生産科学 動物資源生理生化学 持続生産科学特別研究						
専	教授	御手洗 正文	平成19年4月	持続生産科学 農業環境工学特論 持続生産科学特別研究						
専	教授	位田 晴久	平成19年4月	持続生産科学 先端園芸学 持続生産科学特別研究						
専	教授	辰巳 保夫	平成19年4月	持続生産科学 ホースターベスタイロジ- 持続生産科学特別研究	専	准教授	足立 勝	平成21年3月	持続生産科学 ホースターベスタイロジ-	授業科目担当変更(20) 辰巳教授の辞職(H20.3)により変更 21年1月教員審査済(21)
専	教授	小川 紹文	平成19年4月	持続生産科学 作物生産学 持続生産科学特別研究						
専	教授	入江 正和	平成19年4月	持続生産科学 動物資源生理生化学 持続生産科学特別研究						
専	教授	中尾 登志雄	平成19年4月	持続生産科学 造林学特論 持続生産科学特別研究						
専	教授	國武 久登	平成19年4月	持続生産科学 植物育種学特論 持続生産科学特別研究						
専	准教授	山本 直之	平成19年4月	社会基盤災害軽減学 環境共生科学特別研究	専	教授	山本 直之	平成20年10月	社会基盤災害軽減学 環境共生科学特別研究	昇格による変更 山本准教授の教授昇格により変更 20年7月教員審査済(21)
専	准教授	伊藤 哲	平成19年4月	森林資源保全利用学 環境共生科学特別研究	専	教授	伊藤 哲	平成21年9月	森林資源保全利用学 環境共生科学特別研究	昇格による変更 伊藤准教授の教授昇格により変更 21年6月変更書提出予定(21)
専	准教授	石井 康之	平成19年4月	草本植物資源開発・利用学 環境共生科学特別研究						
専	准教授	飛佐 学	平成19年4月	草地システム科学 環境共生科学特別研究						
専	准教授	長谷川 信美	平成19年4月	応用動物環境管理学 動物機能情報制御学 環境共生科学特別研究	専	教授	長谷川 信美	平成21年9月	応用動物環境管理学 動物機能情報制御学 環境共生科学特別研究	昇格による変更 長谷川准教授の教授昇格により変更 21年6月変更書提出予定(21)
専	准教授	瀬崎 満弘	平成19年4月	社会基盤災害軽減学 地域社会基盤特論Ⅱ 環境共生科学特別研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	土手 裕	平成19年4月	環境共生科学特論 環境共生科学特別研究						
専	准教授	吉武 哲信	平成19年4月	社会基盤災害軽減学 地域社会基盤特論Ⅰ 環境共生科学特別研究						
専	准教授	出口 近士	平成19年4月	地域社会基盤特論Ⅰ 環境共生科学特別研究						
専	准教授	村上 啓介	平成19年4月	社会基盤災害軽減学 地域社会基盤特論Ⅱ 環境共生科学特別研究						
専	准教授	松下 洋一	平成19年4月	研究者倫理 資源循環化学特論 環境共生科学特別研究						
専	准教授	塩盛 弘一郎	平成19年4月	資源循環化学特論 環境共生科学特別研究						
専	准教授	大島 達也	平成19年4月	資源循環化学特論 環境共生科学特別研究						
専	准教授	鈴木 祥広	平成19年4月	環境共生科学特論 環境共生科学特別研究						
専	准教授	津野 和宣	平成19年4月	分子植物病理学 持続生産科学特別研究						
専	准教授	鉄村 琢哉	平成19年4月	先端園芸学 持続生産科学特別研究						
専	准教授	森田 哲夫	平成19年4月	動物資源生理生化学 持続生産科学特別研究						
専	准教授	續木 靖浩	平成19年4月	動物機能情報制御学 持続生産科学特別研究						
専	准教授	宮島 大一郎	平成19年4月	先端園芸学 持続生産科学特別研究	専 専	教授 准教授	位田 晴久 鉄村 琢哉	平成21年3月 平成20年9月	先端園芸学	宮島准教授の死亡退職（H20.2）により変更 位田：21年1月教員審査済（21） 鉄村：20年7月教員審査済（21）
専	准教授	足立 勝	平成19年4月	ホトトギス・ストバ・イロシ 持続生産科学特別研究						
専	准教授	山村 善洋	平成19年4月	農業環境工学特論 持続生産科学特別研究						
兼任	講師	守屋 和幸	平成19年4月	研究者倫理						
兼任	講師	楠田 哲也	平成19年4月	研究者倫理						

(2) 専任教員数

認 可 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助 手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助 手	
40	6	46	0	39	5	44	0	
(40)	(6)	(46)	(0)	[Δ 1]	[Δ 1]	[Δ 2]	[0]	

(3) 専任教員交代の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	准教授	宮島 大一郎	平成20年2月3日退職
2	教授	辰巳 保夫	平成20年3月31日退職
3			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

辞職した専任教員の担当科目については、平成20年7月に教員審査提出し、その結果を受けて授業を開講している。また、平成20年7月の審査結果で保留とされた教員については、平成21年3月に教員資格審査へ提出し、その結果を受けて授業を開講した。

なお、学生へはオリエンテーションにて周知した。

- (注) 1 「(1) 担当教員表」は、認可申請書の様式第3号(その1)に準じて作成してください。
なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- 2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消しした部分については、黒字で記載してください。
(記入例参照)
- 3 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- 4 退職者は「備考」欄に退職年月、理由を記入してください。
- 5 年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」欄には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- 6 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は「後任未定」及び今後の採用計画を「備考」欄に記入してください。また、「専任教員採用等変更書(A C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。前判定があり審査が不要となる教員についてはその前判定とその授業科目名称をそれぞれ「備考」欄に()書きで記入してください。(記入例参照)
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」欄に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
- 7 「(2) 教員数」の「認可時の計画」欄には、完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在(就任年月に達していない者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に差し引き数を記入してください。
(記入例: 1名減の場合: △1)
- 8 「(3) 専任教員交代の理由」欄には、認可時の計画からの専任教員交代の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- 9 「(4) 専任教員交代に係る大学の所見」欄には、専任教員交代に係る学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<農学工学総合研究科 生物機能応用科学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	林 幸男	平成19年4月	生命機能利用学 微生物機能利用学 生命機能科学特別研究						
専	教授	横井 春比古	平成19年4月	生命機能利用学 生物応用工学 生命機能科学特別研究						
専	教授	太田 一良	平成19年4月	生命機能利用学 微生物機能利用学 生命機能科学特別研究						
専	教授	水光 正仁	平成19年4月	生命機能利用学 応用生物化学 生命機能科学特別研究						
専	教授	福田 亘博	平成19年4月	生命機能利用学 食品機能化学 生命機能科学特別研究						
専	教授	窄野 昌信	平成19年4月	生命機能利用学 食品機能化学 生命機能科学特別研究						
専	教授	松井 隆尚	平成19年4月	生物物質工学 生命機能科学特別研究						
専	教授	小川 喜八郎	平成19年4月	生物物質工学 生命機能科学特別研究						
専	教授	三浦 知之	平成19年4月	水域生物科学 水域資源生物学 水域生物科学特別研究						
専	教授	岩槻 幸雄	平成19年4月	水域生物科学 水域資源生物学 水域生物科学特別研究						
専	教授	前田 昌調	平成19年4月	水域生物科学 水域生命利用化学 水域生物科学特別研究						
専	教授	香川 浩彦	平成19年4月	水域生物科学 水族生理・病理学 水域生物科学特別研究						
専	教授	伊丹 利明	平成19年4月	水域生物科学 水族生理・病理学 水域生物科学特別研究						
専	教授	酒井 正博	平成19年4月	水域生物科学 水族分子生物学 水域生物科学特別研究						
専	教授	村田 寿	平成19年4月	水域生物科学 水域生命利用化学 水域生物科学特別研究						
専	教授	幡手 英雄	平成19年4月	水域生物科学 水域生命利用化学 水域生物科学特別研究						
専	教授	境 正	平成19年4月	水域生物科学 水域生命利用化学 水域生物科学特別研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	神田 猛	平成19年4月	水域生物科学 水域資源生物学 水域生物科学特別研究						
専	准教授	湯井 敏文	平成19年4月	生体情報解析学 生命機能科学特別研究						
専	准教授	廣瀬 遵	平成19年4月	研究者倫理 生物応用工学 生命機能科学特別研究						
専	准教授	吉田 直人	平成19年4月	微生物機能利用学 生命機能科学特別研究						
専	准教授	榊原 陽一	平成19年4月	研究者倫理 生体情報解析学 生命機能科学特別研究						
専	准教授	江藤 望	平成19年4月	応用生物化学 生命機能科学特別研究						
専	准教授	吉田 照豊	平成19年4月	研究者倫理 水族生理・病理学 水域生物科学特別研究						
専	准教授	林 雅弘	平成19年4月	水域生命利用化学 水域生物科学特別研究						
専	准教授	荒西 太士	平成19年4月	水族分子生物学 水域生物科学特別研究	専	教授	酒井 正博	平成20年4月	水族分子生物学	授業科目担当変更 荒西准教授の辞職により変更 20年1月教員審査済(20)

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
22	4	26	0	21	4	25	0	
(22)	(4)	(26)	(0)	[Δ1]	[0]	[Δ1]	[0]	

(3) 専任教員交代の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	准教授	荒西 太士	平成19年10月1日辞職
2			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成20年1月に授業科目担当の教員審査において、判定可であったので、授業科目開講に支障はなかった。

- (注) 1 「(1) 担当教員表」は、認可申請書の様式第3号(その1)に準じて作成してください。
なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- 2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消しした部分については、黒字で記載してください。
(記入例参照)
- 3 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- 4 退職者は「備考」欄に退職年月、理由を記入してください。
- 5 年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」欄には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- 6 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は「後任未定」及び今後の採用計画を「備考」欄に記入してください。また、「専任教員採用等変更書(A C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。前判定があり審査が不要となる教員についてはその前判定とその授業科目名称をそれぞれ「備考」欄に()書きで記入してください。(記入例参照)
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」欄に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
- 7 「(2) 教員数」の「認可時の計画」欄には、完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在(就任年月に達していない者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に差し引き数を記入してください。
(記入例：1名減の場合：△1)
- 8 「(3) 専任教員交代の理由」欄には、認可時の計画からの専任教員交代の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- 9 「(4) 専任教員交代に係る大学の所見」欄には、専任教員交代に係る学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<農学工学総合研究科 物質・情報工学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	尾関 雅志	平成19年4月	エネルギー変換論 半導体材料特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	木島 剛	平成19年4月	エネルギー変換論 機能性材料特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	田畑 研二	平成19年4月	エネルギー変換論 機能性材料特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	保田 昌秀	平成19年4月	エネルギー変換論 光・レーザー-工学特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	窪寺 昌一	平成19年4月	エネルギー変換論 光・レーザー-工学特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	大坪 昌久	平成19年4月	エネルギー変換論 エネルギー-応用工学特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	大崎 明彦	平成19年4月	エネルギー変換論 量子エネルギー特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	廿日出 勇	平成19年4月	エネルギー変換論 宇宙工学-工学特論 新材料工学-工学特別研究						
専	教授	池田 清彦	平成19年4月	設計生産システム論 設計生産技術特論 生産工学特別研究						
専	教授	菊地 正憲	平成19年4月	設計生産システム論 可視化情報振動工学特論 生産工学特別研究						
専	教授	中西 勉	平成19年4月	設計生産システム論 設計生産技術特論 生産工学特別研究						
専	教授	富田 重幸	平成19年4月	設計生産システム論 高度生産情報システム特論 生産工学特別研究						
専	教授	佐藤 治	平成19年4月	設計生産システム論 制御システム特論 生産工学特別研究						
専	教授	河野 通夫	平成19年4月	設計生産システム論 制御システム特論 生産工学特別研究						
専	教授	小園 茂平	平成19年4月	設計生産システム論 可視化情報振動工学特論 生産工学特別研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	吉原 郁夫	平成19年4月	数理情報工学論 情報処理ソフトウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	教授	村尾 健次	平成19年4月	数理情報工学論 情報処理ハードウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	教授	横田 光広	平成19年4月	数理情報工学論 情報処理ハードウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	教授	古谷 博史	平成19年4月	数理情報工学論 情報処理ソフトウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	教授	辻川 亨	平成19年4月	数理情報工学論 生物の数理モデル特論 数理情報工学特別研究						
専	教授	仙葉 隆	平成19年4月	数理情報工学論 生物の数理モデル特論 数理情報工学特別研究	専	教授	辻川 亨	平成19年4月	数理情報工学論 生物の数理モデル特論	授業科目担当変更(20) 仙葉教授の辞職により変更 19年10月教員審査済
					専	准教授	大塚 浩史	平成19年4月	生物の数理モデル特論	
専	准教授	前田 幸治	平成19年4月	半導体材料特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究						
専	准教授	吉野 賢二	平成19年4月	半導体材料特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究						
専	准教授	甲藤 正人	平成19年4月	新材料エレクトロニクス工学特別研究						
専	准教授	横谷 篤至	平成19年4月	光・レーザー工学特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究	専	教授	横谷 篤至	平成20年10月	光・レーザー工学特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究	昇格による変更書提出予定(20) 横谷准教授の教授昇格により変更 20年7月教員審査済(21)
専	准教授	福山 敦彦	平成19年4月	半導体材料特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究						
専	准教授	酒井 剛	平成19年4月	機能性材料特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究						
専	准教授	白上 努	平成19年4月	光・レーザー工学特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究						
専	准教授	青山 智夫	平成19年4月	エレクトロニクス応用工学特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究						
専	准教授	松田 達郎	平成19年4月	研究者倫理 量子エネルギー特論 新材料エレクトロニクス工学特別研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	山内 誠	平成19年4月	宇宙工機材 [*] -工学特論 新材料工機材 [*] -工学特別研究						
専	准教授	五十嵐 明則	平成19年4月	量子エネルギー特論 新材料工機材 [*] -工学特別研究						
専	准教授	森 浩二	平成19年4月	宇宙工機材 [*] -工学特論 新材料工機材 [*] -工学特別研究						
専	准教授	岡部 匡	平成19年4月	可視化情報振動工学特論 生産工学特別研究						
専	准教授	海津 浩一	平成19年4月	設計生産技術特論 生産工学特別研究	専 専 専	教授 准教授 准教授	古谷 博史 坂本 真人 鄧 鋼	平成20年4月	設計生産技術特論	授業科目担当変更 海津准教授の辞職により変更 20年1月教員審査済(20)
専	准教授	川末 紀功仁	平成19年4月	可視化情報振動工学特論 生産工学特別研究						
専	准教授	鄧 鋼	平成19年4月	研究者倫理 設計生産技術特論 生産工学特別研究	専	教授	鄧 鋼	平成21年9月	研究者倫理 設計生産技術特論 生産工学特別研究	昇格による変更 鄧准教授の教授昇格により変更 21年6月変更書提出予定(21)
専	准教授	岡崎 直宣	平成19年4月	高度生産情報システム特論 生産工学特別研究						
専	准教授	片山 徹郎	平成19年4月	高度生産情報システム特論 生産工学特別研究						
専	准教授	池田 諭	平成19年4月	高度生産情報システム特論 生産工学特別研究						
専	准教授	横道 政裕	平成19年4月	情報処理ハードウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	准教授	淡野 公一	平成19年4月	情報処理ハードウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	准教授	松本 寛樹	平成19年4月	情報処理ハードウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	准教授	山森 一人	平成19年4月	研究者倫理 情報処理ソフトウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	准教授	坂本 真人	平成19年4月	生物の数理モデル特論 数理情報工学特別研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	伊達 章	平成19年4月	情報処理ソフトウェア特論 数理情報工学特別研究						
専	准教授	矢崎 成俊	平成19年4月	生物の数理モデル特論 数理情報工学特別研究						
専	准教授	大塚 浩史	平成19年4月	生物の数理モデル特論 数理情報工学特別研究						
兼任	教授	村上 昇	平成19年4月	生物の数理モデル特論						

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
39	9	48	0	37	9	46	0	
(39)	(9)	(48)	(0)	[Δ 2]	[0]	[Δ 2]	[0]	

(3) 専任教員交代の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	仙葉 隆	平成19年8月31日退職
2	准教授	海津 浩一	平成19年9月30日退職

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成19年10月及び平成20年1月に授業科目担当の教員審査において、判定可であったので、授業科目開講に支障はなかった。

- (注) 1 「(1) 担当教員表」は、認可申請書の様式第3号(その1)に準じて作成してください。
なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- 2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
(記入例参照)
- 3 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- 4 退職者は「備考」欄に退職年月、理由を記入してください。
- 5 年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」欄には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- 6 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は「後任未定」及び今後の採用計画を「備考」欄に記入してください。また、「専任教員採用等変更書(A C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。前判定があり審査が不要となる教員についてはその前判定とその授業科目名称をそれぞれ「備考」欄に()書きで記入してください。(記入例参照)
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」欄に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
- 7 「(2) 教員数」の「認可時の計画」欄には、完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在(就任年月に達していない者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に差し引き数を記入してください。
(記入例：1名減の場合：△1)
- 8 「(3) 専任教員交代の理由」欄には、認可時の計画からの専任教員交代の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- 9 「(4) 専任教員交代に係る大学の所見」欄には、専任教員交代に係る学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>【資源環境科学専攻】</p> <p>○設置の趣旨に挙げる農学と工学の連携・融合における融合科目設置の意義について、学生の理解が得られるように配慮すること。</p>	<p>平成19年4月4日（水）に新生入生に対しオリエンテーションを行い、農学と工学との連携・融合科目の設置の意義を説明した。(19)</p> <p>平成19年度10月入学生に対して、また平成20年度4月入学生に対して、オリエンテーションを行い、農学と工学との連携・融合科目設置の意義について説明した。さらに、在学生（2年次生）に対しても、オリエンテーションを実施するよう各主指導教員へ通知した。(20)</p> <p>平成20年度10月入学生と平成21年度4月入学生に対して、オリエンテーションを行い、農学と工学との連携・融合科目の設置の意義を説明した。さらに、在学生（2, 3年次生）に対しても、オリエンテーションを実施し、融合科目の意義について説明した。(21)</p>	
	<p>○コーディネータが管理能力を発揮できるような体制づくりに努めること。</p>	<p>各教科目にコーディネーターを配置し、講義開始前に各教科目の教育内容に沿って教員毎の教育内容を点検・調整し、総合的にシラバスの「授業のねらい」に合致するような教育内容となるよう指導できる体制にする。また、講義終了後に、コーディネーターは各教員の授業の実施状況を点検し、次年度に向けた改善点を明らかにする。(19)</p> <p>平成19年度に開講された講義科目において、コーディネーターは受講生に対して授業評価を実施するとともに、授業点検シートを作成し授業の実施状況を点検した。また、授業の点検結果を基にして、コーディネーターは次年度に向けた授業の改善点を明らかにした。(20)</p> <p>平成20年度に開講された講義科目において、コーディネーターは学生による授業評価に基づき授業点検シートを作成し、授業の実施状況を点検した。また、授業の点検結果を基に、コーディネーターは次年度に向けた授業の改善点を明らかにした。(21)</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時 (平成18年11月)</p>	<p>○学位として博士(農学)、博士(工学)、博士(学術)を付与するとあるが、それぞれの学位について学位授与プロセスが明確となるように配慮すること。</p>	<p>教育課程を踏まえた学位取得までの履修モデルおよび学位取得プロセス(標準モデル)をシラバスに示した。また、各学生に対し、主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置する。学生が希望する学位に合致した教科目を学習・取得するよう主指導教員と副指導教員が協議し、学生を指導、また、各々の学位に沿った研究テーマ、研究計画の策定を行う。(19)</p> <p>平成19年度(4月および10月)及び20年度入学生に対して、教育課程を踏まえた学位取得までの履修モデルおよび学位取得プロセス(標準モデル)をシラバスで周知した。また、各学生に対し、主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置した。学生が希望する学位に合致した教科目を学習・取得するよう主指導教員と副指導教員が協議し、指導した。さらに、主指導教員と副指導教員は、学生が各々の学位に沿った研究テーマおよび研究計画を策定するように指導した。(20)</p> <p>平成20年度10月入学生と21年度4月入学生を対象にオリエンテーションを行い、教育課程を踏まえたそれぞれの学位取得までの履修モデルおよび学位取得プロセス(標準モデル)の説明を行うとともにシラバスで周知した。また、各学生に対し、主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置した。学生が希望する学位に合致した教科目を学習・取得するよう主指導教員と副指導教員が協議し、指導した。さらに、主指導教員と副指導教員は、学生が各々の学位に沿った研究テーマおよび研究計画を策定するように指導した。さらに、留学生に対しても英文シラバスや英文履修モデルを提示し、より一層指導を徹底した。(21)</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>【生物機能応用科学専攻】</p> <p>○設置の趣旨に挙げる農学と工学の連携・融合における融合科目設置の意義について、学生の理解が得られるように配慮すること。</p>	<p>平成19年4月4日（水）に新生入生に対しオリエンテーションを行った。その際、農学と工学との連携・融合科目の設置の意義を説明した。(19)</p> <p>平成19年度10月入学生に対して、また平成20年度4月入学生に対して、オリエンテーションを行い、農学と工学との連携・融合科目の設置の意義を説明した。さらに、在学生（2年次生）に対しても、オリエンテーションを実施するよう各指導教員へ通知した。(20)</p> <p>平成20年度10月入学生に対して、また平成21年度4月入学生に対して、オリエンテーションを行い、農学と工学との連携・融合科目の設置の意義を説明した。さらに、在学生（2, 3年次生）に対しても、オリエンテーションを実施し、融合科目の意義について説明した。(21)</p>	
	<p>○コーディネータが管理能力を発揮できるような体制づくりに努めること。</p>	<p>教科目にコーディネーターを配置し、講義開始前に各教科目の教育内容に沿って教員毎の教育内容を点検・調整し、総合的にシラバスの「授業のねらい」に合致するような教育内容となるよう指導できる体制にする。また、講義終了後に、コーディネーターは各教員の授業の実施状況を点検し、次年度に向けた改善点を明らかにする。(19)</p> <p>平成19年度に開講された講義科目において、コーディネーターは学生による授業評価に基づいて、授業点検シートを作成して授業の実施状況を点検した。また、授業の点検結果を基にして、コーディネーターは次年度に向けた授業の改善点を明らかにした。(20)</p> <p>平成20年度に開講された講義科目において、コーディネーターは学生による授業評価に基づいて、授業点検シートを作成して授業の実施状況を点検した。また、授業の点検結果を基にして、コーディネーターは次年度に向けた授業の改善点を明らかにした。(21)</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>○学位として博士(農学)、博士(工学)、博士(学術)を付与するとあるが、それぞれの学位について学位授与プロセスが明確となるように配慮すること。</p>	<p>教育課程を踏まえた学位取得までの履修モデルおよび学位取得プロセス(標準モデル)をシラバスに示した。また、各学生に対し、主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置する。学生が希望する学位に合致した教科目を学習・取得するよう主指導教員と副指導教員が協議し、学生を指導、また、各々の学位に沿った研究テーマ、研究計画の策定を行う。(19)</p> <p>平成19年度(4月、10月)および20年度入学生に対して、教育課程を踏まえた学位取得までの履修モデルおよび学位取得プロセス(標準モデル)をシラバスで周知した。また、各学生に対し、主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置した。学生が希望する学位に合致した教科目を学習・取得するよう主指導教員と副指導教員が協議し、学生を指導、また、各々の学位に沿った研究テーマ、研究計画を策定するよう指導した。(20)</p> <p>平成20年度(4月、10月)および21年度入学生に対して、教育課程を踏まえた学位取得までの履修モデルおよび学位取得プロセス(標準モデル)をシラバスで周知した。また、各学生に対し、主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置した。学生が希望する学位に合致した教科目を学習・取得するよう主指導教員と副指導教員が協議し、学生を指導、また、各々の学位に沿った研究テーマ、研究計画を策定するよう指導した。さらに、留学生に対しても英文シラバスや英文履修モデルを提示し、より一層指導を徹底した。(21)</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>【物質・情報工学専攻】</p> <p>○設置計画の実施過程で大学院教育の実質化に関連する取組を強化すること。</p>	<p>平成19年度実施の特別研究を除く全ての科目において、コーディネーターが社会人を含む全学生の意向を調査し、日程を調整した上で、講義を実施した。また、コーディネーターは講義の開始時に、シラバスにしたがって講義内容と計画を説明し、全講義終了後には、学生に授業評価調査票のアンケートを実施するとともに、授業点検シートをまとめ、次年度に向けた講義内容改善等の方策をまとめた。特別研究においては、指導教員と複数の副指導教員が協力して研究計画等を指導し、学生は計画的に研究を実施した。年度末には、複数指導教員体制の下で、発表会等を実施して、研究の進捗状況を確認した。(20)</p> <p>平成20年度(4月、10月)および21年度入学生に対して、教育課程を踏まえた学位取得までの履修モデルおよび学位取得プロセス(標準モデル)をシラバスで周知した。また、平成20年度実施の特別研究を除く全ての科目においては、コーディネーターが学生による授業評価に基づいて、授業点検シートを作成して授業の実施状況を点検するとともに、授業の点検結果を基にして、次年度に向けた授業の改善点を明らかにした。特別研究においては、学生1名に対して、主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置し、特に、就学2年目の学生には指導された研究計画等に従い計画的に研究を実施させて、その成果を学内外で英語による口頭発表を含め広く公表させ、更なる研究の進捗状況を確認した。(21)</p>	<p>【基礎科目群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者倫理：コーディネーターを配置し、講義計画および講義分担を明確にして講義を実施する。 ・専攻必修講義：コーディネーターを配置し、講義計画および講義分担を明確にして講義を実施する。 <p>【研究基盤科目群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻選択講義：コーディネーターが、学生・主指導教員・講義担当教員と協議をして、講義計画を立てて講義を実施する。 <p>【特別研究】</p> <p>学生は、指導教員及び副指導教員の研究指導に従い、研究計画を策定し、その研究計画の下に実験や理論を展開して研究論文を仕上げていく。指導生に対して以下の指導を行う。</p> <p>第一段階では、①研究テーマの設定に必要な文献調査、②興味を持つ研究領域の動向・将来性などについての文献調査を行い、的確な研究遂行計画を策定する。</p> <p>第二段階では、研究の進捗過程で生じる実験装置の設計と組み立て、機材・資料の準備、データや文献収集を行う。さらに、学生は、研究の進捗状況を専攻毎に開催するセミナーにおいて英語による口頭発表を2回行う(ただし、外国人留学生については日本語でもよい)。さらに、まとまった研究成果は学会等で学外に発表する。</p> <p>第三段階では、これまでの学術誌投稿論文や主要な国際会議での発表論文を纏め、学位論文の作成、博士論文審査会での発表などについて、指導を行う。(19)</p>

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (平成19年1月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成20年1月)	該当なし		

- (注) 1 「認可時」欄には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の審附行為又は審附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度（丸数字）を付記してください。
- 2 「設置計画履行状況調査時」欄には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- 3 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- 4 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<農学工学総合研究科（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	特になし

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

※関係規程等を転載又は添付すること

平成19年10月に農学工学総合研究科にFDに関する事項を審議するため、FD専門委員会を設置した。

宮崎大学大学院農学工学総合研究科FD専門委員会細則

(設置)

第1条 宮崎大学大学院農学工学総合研究科委員会規程第9条第1項の規定に基づき、宮崎大学大学院農学工学総合研究科FD専門委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) FD関連の活動の企画、支援、推進に関する事項
- (2) 学生による就学時の授業評価に基づく改善に関する事項
- (3) 修了生及び就職先による教育評価に基づく改善に関する事項
- (4) その他FDに関する事項

(組織)

第3条 委員会は、各講座から1人ずつ選出された専任教員をもって組織する。

(委員の任期)

第4条 前条の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の中から互選する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長の任期は2年とする。

4 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 議事は出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

3 委員に事故があるときは、その代理人を出席させるものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第8条 委員会は、研究科委員会等に適宜検討の経過報告を行うものとする。

(事務)

第9条 委員会の事務は、研究科長が所属する学部事務部において処理する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成19年度はFD委員会を2回開催した。委員は7名で、必要に応じて委員会を開催している。委員会の成立要件が委員の3分の2以上の出席が必要なため、代理出席を認めている。

c 委員会の審議事項等

1. FD関連の活動の企画、支援、推進に関する事項
2. 学生による就学時の授業評価に基づく改善に関する事項
3. 修了生及び就職先による教育評価に基づく改善に関する事項
4. その他FDに関する事項

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

- ・ 授業評価アンケート
- ・ 授業評価アンケートの結果を踏まえて、授業方法についての検討

b 実施方法

今後の検討課題とし、検討を行う。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

平成19年度に2回開催。（1回目－全員参加・2回目－1名欠席）

平成20年度に1回開催。（2名欠席）

平成21年度に2回程度開催予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業評価アンケートの結果を踏まえて、授業方法について検討した。具体的には必修科目である研究者倫理において、コーディネーターが中心となって、教科書として用いる冊子の作成に参画した。また、留学生にも配慮して、授業の配布資料に英語の説明を追加した。他のオムニバス形式の授業でも、学生からの授業改善の要望を踏まえて、コーディネーターが指導力を発揮して、授業の資料の英文化などを推進している。

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別添のとおり

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成21年6月に公表予定

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定（本年6月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

平成21年度は予定なし。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
(個人情報を除いた部分)
- b 公表時期 (平成19年7月)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www.miyazaki-u.ac.jp/mod/uom/modules/pico01/index.php?content_id=58)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
(個人情報を除いた部分)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成21年7月)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www.miyazaki-u.ac.jp/mod/uom/modules/pico01/index.php?content_id=58)

- (注) 1 項目は、1～6の項目により記入した事項以外で、認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- 2 記入事項は、原則として、設置認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
- 3 「(3) 自己点検・評価等に関する事項」については、認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、積極的な評価を行う場合、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
記入方法は、欄内には(別紙のとおり)とし、A4版1枚程度で作成した別紙を添付してください。
なお、「B 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- 4 「(4) 情報提供に関する事項」の「①」及び「②」の「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、現在は未公表であり、今後公表を予定している場合は、公表後の取扱いについて記入してください。